

小学校と公園の一体的利用で、学びの広場を継承する

旧元町小学校・元町公園は、設計当初より公園と小学校のタイムシェアが図られており、その試みは時代を先駆けたものでした。ここ元町で実践されてきた考えを踏まえ、将来へ向けたより良い地域コミュニティ・社会環境の実現を目指すうえで、再び公園と校舎を一体的に活用することは必要不可欠です。

実施する理由・背景 当初の姿のまま現存する唯一の復興小学校・小公園

旧元町小学校・元町公園は、帝都復興事業でつくられた復興小学校・小公園であり、当時のまま現存する唯一の事例です。小学校を安全で堅牢なコンクリート造とするだけにとどまらず、小公園とセットで計画することで、住民がこれを利用し地域コミュニティを育むなかで、防災意識を芽生えさせてきました。開校当初より、公園と小学校は、公園を児童が校庭としてや授業の教材として使ったり、逆に地域住民に開放されたりしながら、時間によって場所のシェアが図られており、その試みは時代を先駆けたものでした。ここ元町で実践されてきた考えを踏襲し、再び公園と校舎を一体的に活用することで、将来に向けたより良い地域コミュニティ・社会環境の実現を目指していきます。

具体的な内容① 体験型施設として、そして新たな避難場所モデルへ

旧元町小学校を、子どもから大人まで、地域住民も通勤者、観光客まで、みんなで体験しながら学べるような、イベントスペースや、オフィス、都市屋上菜園などの施設を設けます。ものづくり教室や菜園、防災勉強会など、さまざまな体験ができる施設とすることで、都市生活者のための新たなコミュニティを育てていきます。また、観光客向けに設けた簡易宿泊施設は、被災した非常時においては、避難場所としても使うことができ、苛酷な環境下での生活の質の向上を目的とした新たな避難場所モデルとして実践し、防災意識の向上を図ります。

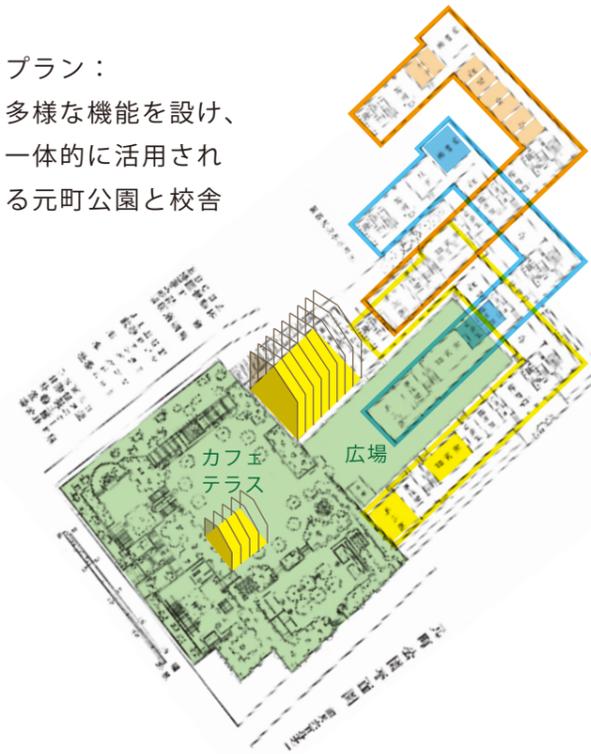
具体的な内容② 公園を多様な学びの場へ

かつて、元町公園は、児童の遊び場だけでなく、学習の教材としても用いられました。地域住民だけでなく、通勤者や観光客などの交流を促すためにも、地域の憩いの場や子どもの遊び場としての『公園』という単一機能ではなく、カフェテラスやレクチャールームなどを整備し、『学びの場』としての公園へと複合機能化することが重要です。歴史文化的な背景や景観を保全しながらも、新たな場所づくりを目指します。



イメージ図：元町公園の豊かな緑を引き込み、生き生きとした活動の場となる校庭

プラン：
多様な機能を設け、一体的に活用される元町公園と校舎



屋上：都市菜園

神田川の緑とつながり都心に住まう人たちのためのオーガニック農園を開園します。

3F: 簡易宿泊施設

文化交流を目的として、観光客を受け入れる簡易宿泊。また、災害時は居心地の良い避難場所ともなる。

2F: レンタルオフィススペース

モノづくりを生業としている人たちのレンタルオフィスとして整備し、子ども向けの課外授業を行います。

1F: 飲食・物販・イベントスペース

公園広場と緩やかに接続した、開放的な場所になります。様々なイベントが催されます。

公園：広場・カフェテラス

地元住民・オフィスワーカー・観光客、、、みんなの憩いの場となります。

参考事例

